



車いすの贈呈式

日本の車いすは手で二つの車輪を動かす。ベトナムにも同じようなものもあるが、生活の中で使われているのはハンドルの軸を前後にこぐ三輪で、舗装されていない道路でも十分使えるという。

国際医療協力山口の会・IMAYAがベトナムのNGOからの要請でこの車いすを贈る運動を始めたのは二〇〇三年で、これまでに百七十台贈った。

昨年九月、IMAYAの支援先を訪問するスタディツアーに参加した。IMAYA会長の岩本功さんは周南記念病院名誉院長、若いころ海外青年協力隊に

も参加したことがあり、山口県協力隊を育てる会長でもある。

カンボジアでも感じたことだが、長く続いたインドシナ紛争のためにかなりの数の障害者がいるが、その人たちへの支援は十分にされていない。

車いすは日本で作るのではなく、現地で作られたものを一台約一万五千円で買う。

今回のスタディツアーでは二カ所で十五台を贈ったが、予定時間より早く到着したのに、贈られる人はもう車いすで待っていた。いかにか待ちかたがたか伝わってくる。

海外援助はしばしば

汚職の温床になり、支援が貧しい人たちにまで届かないという話を耳にする。しかし現地のNGOとの交流の中ではそんなことはない。贈呈者の選挙も地区人民委員会と現地NGOが共同で行っているという。

贈呈式のあと前回、贈られた人の家を訪問した。ベトナム戦争で両方の膝から下を失ったグエンさんの家は田んぼの中にあつた。農作業は奥さんの仕事、彼は自転車の修理業、それまでは他人に頼っていたが、今は車いすで街に出かけて部品などを買っているという。車いすが彼の足だ。



ベトナムの車いす



ベトナム戦争で両足を失ったグエンさん

今年二月に行つた一般観光ツアーでも車いすで土産品を売っている人に会つた。中部の古都、ホイアンのホテルのそばで前輪の上にかごを乗せ、わずかな土産品を売っていた。

現地ガイドの説明によると彼は南ベトナムの兵士でベトナム戦争

で片足を失つたのだという。南北が統一された現在、北ベトナム側の兵士には年金が支給されるが、南ベトナム側だった兵士には年金はない。そのため彼は車いすで土産品を売って生活の糧を得ているのだ。

土産品を買い、カメラを向けるとVサインで応じてくれたのが印象的だった。(元山口放送取締役ラジオ局長)



土産品を売る元南ベトナム兵士